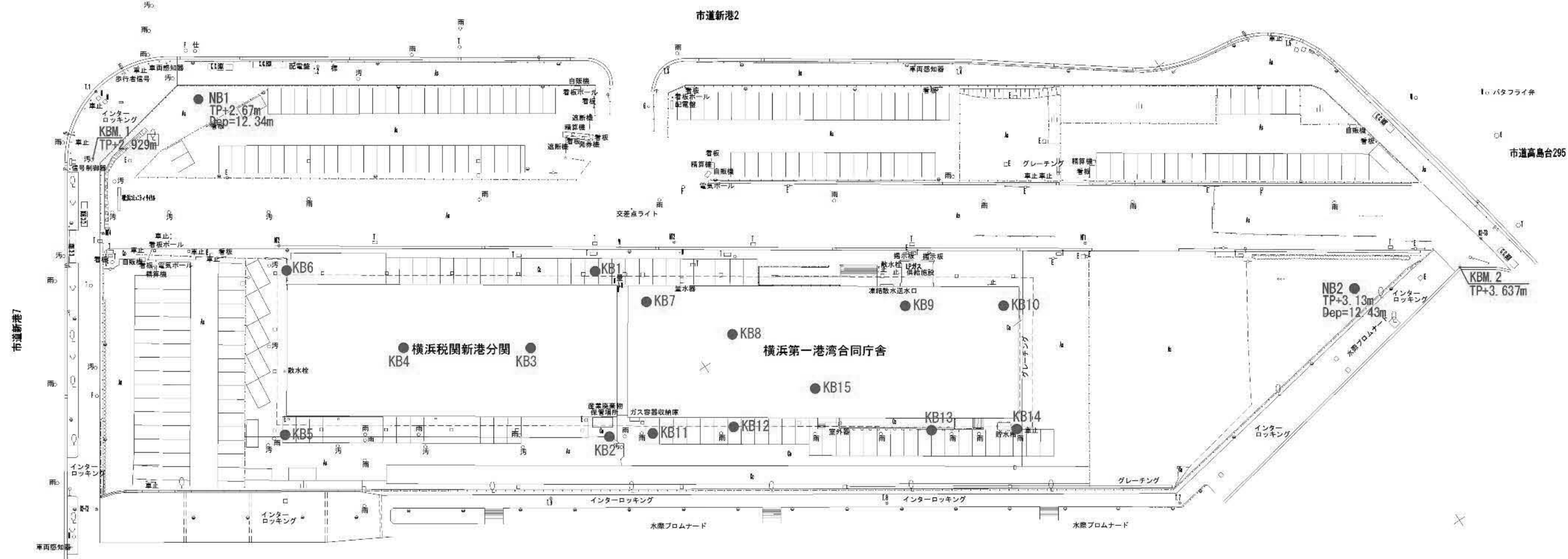


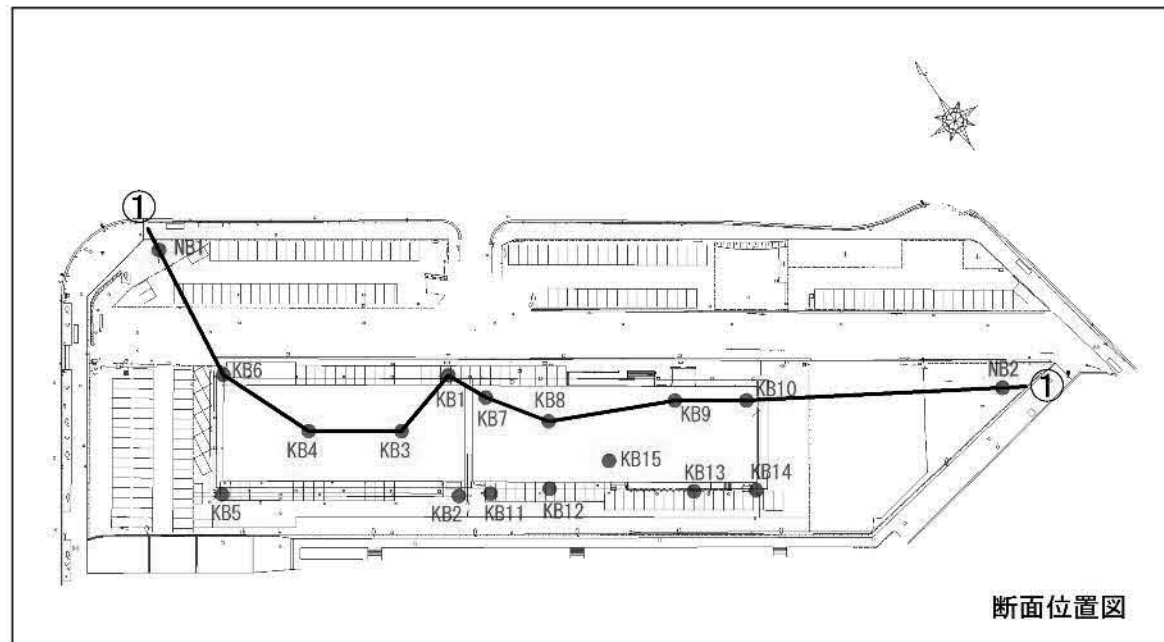
ボーリング調査位置図



地点	X	Y
NB1	-60707.716	-17550.488
NB2	-60853.875	-17392.609

※既往資料の調査位置は特記仕様書を参考に作成

※既往資料は KB-1～KB6 地点は「横浜税関分館庁舎敷地土質調査工事，S38 年 5 月，(株)鬼怒川ボーリング」
KB7～KB15 地点は「横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査，S40 年 12 月，協和地下開発(株)」



地質層序表

時代	地層名	土質区分	記号
第四紀	埋土層	粘性土層	B1
		砂質土層	B2
	沖積層	粘性土層	Ac
	上総層群星川層	砂質土層	HKs
		泥岩層	HK

※既往資料は KB1～KB6 地点は「横浜税関分館庁舎敷地土質調査工事, S38 年 5 月, ㈱鬼怒川ボーリング」
KB7～KB15 地点は「横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査, S40 年 12 月, 協和地下開発㈱」

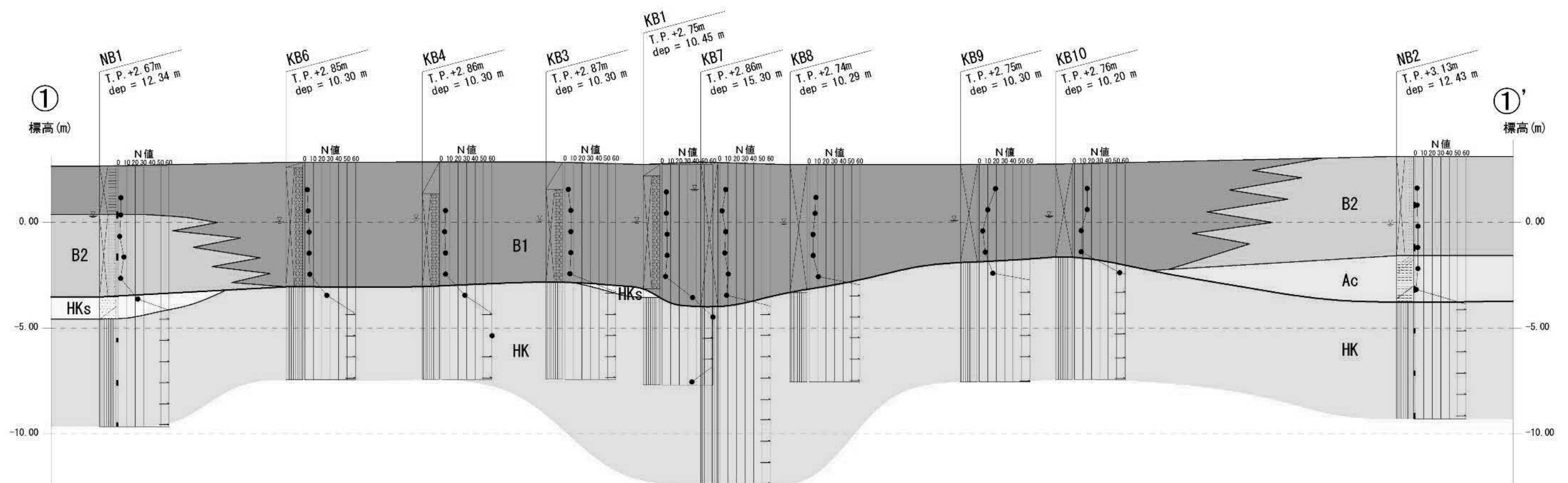
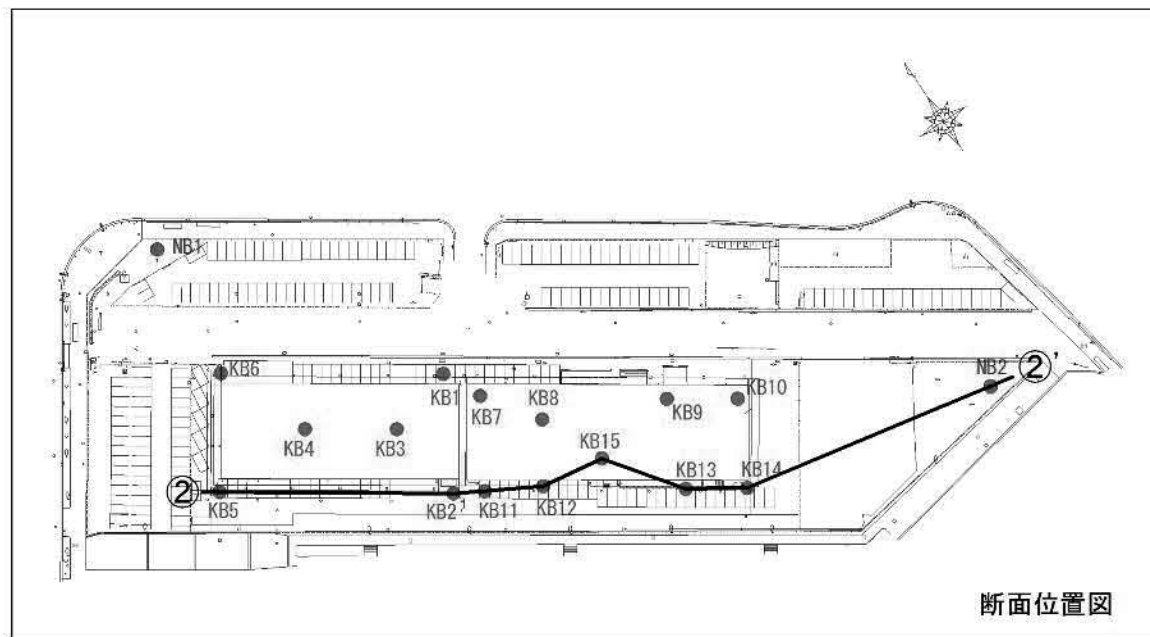


図 4.1.1 推定地層断面図 H=1:800, V=1:200



地質層序表

時代	地層名	土質区分	記号
第四紀	埋土層	粘性土層	B1
		砂質土層	B2
	沖積層	粘性土層	Ac
	上総層群星川層	砂質土層	HKs
		泥岩層	HK

※既往資料は KB1～KB6 地点は「横浜税関分館庁舎敷地土質調査工事，S38 年 5 月，(株)鬼怒川ボーリング」
KB7～KB15 地点は「横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査，S40 年 12 月，協和地下開発(株)」

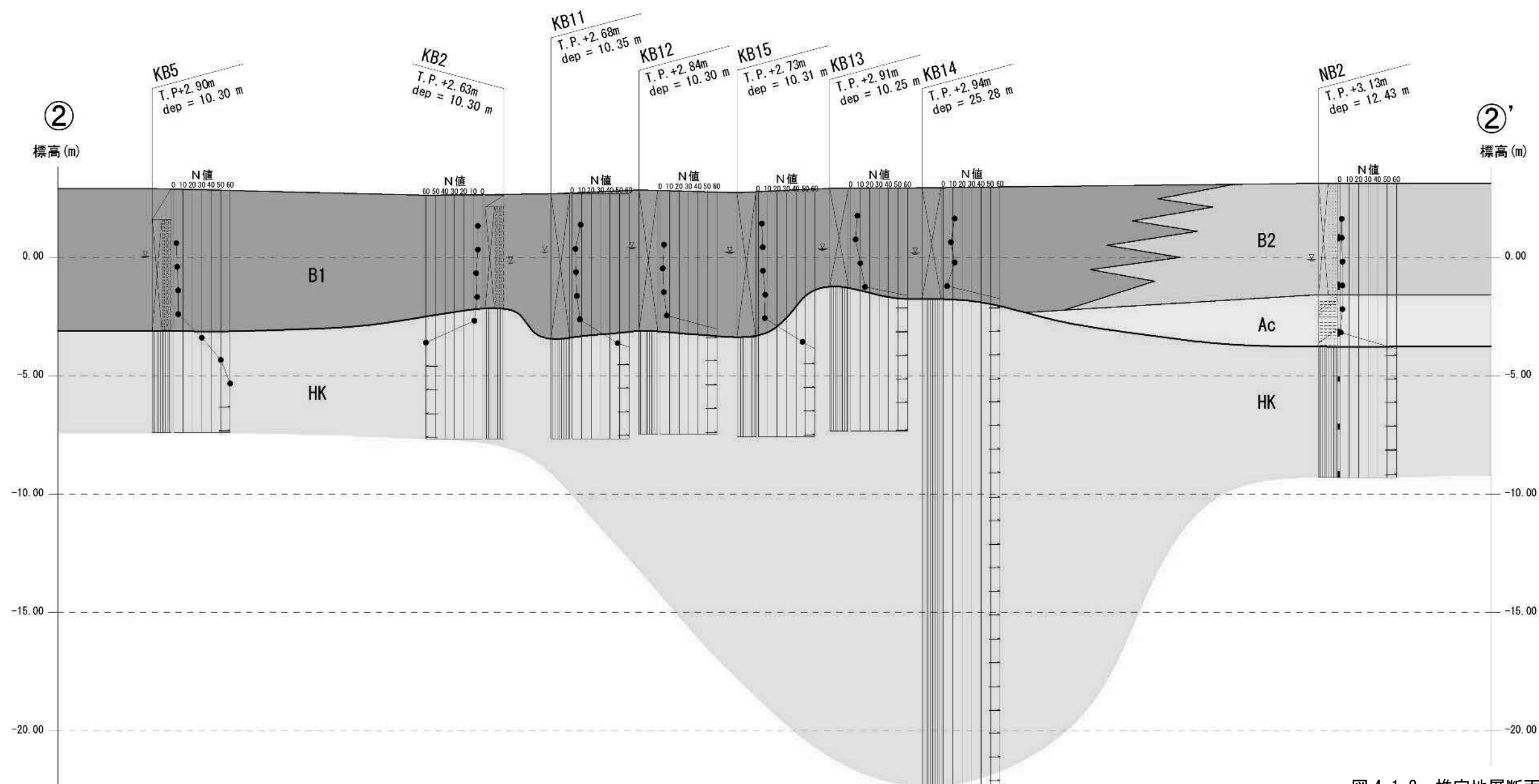
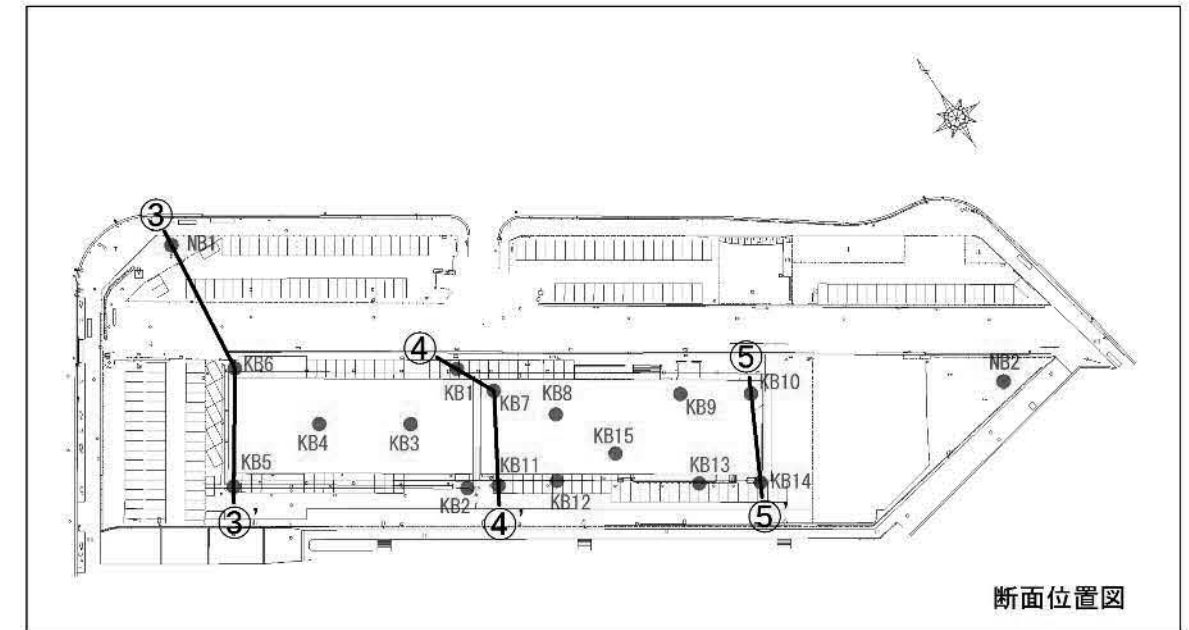
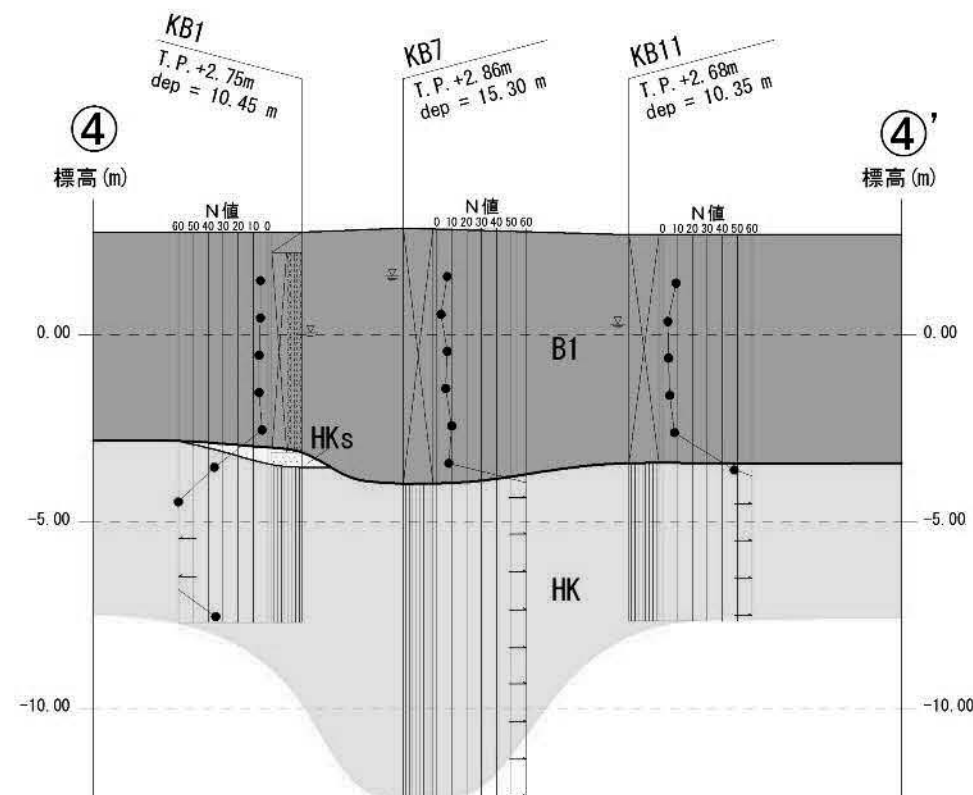
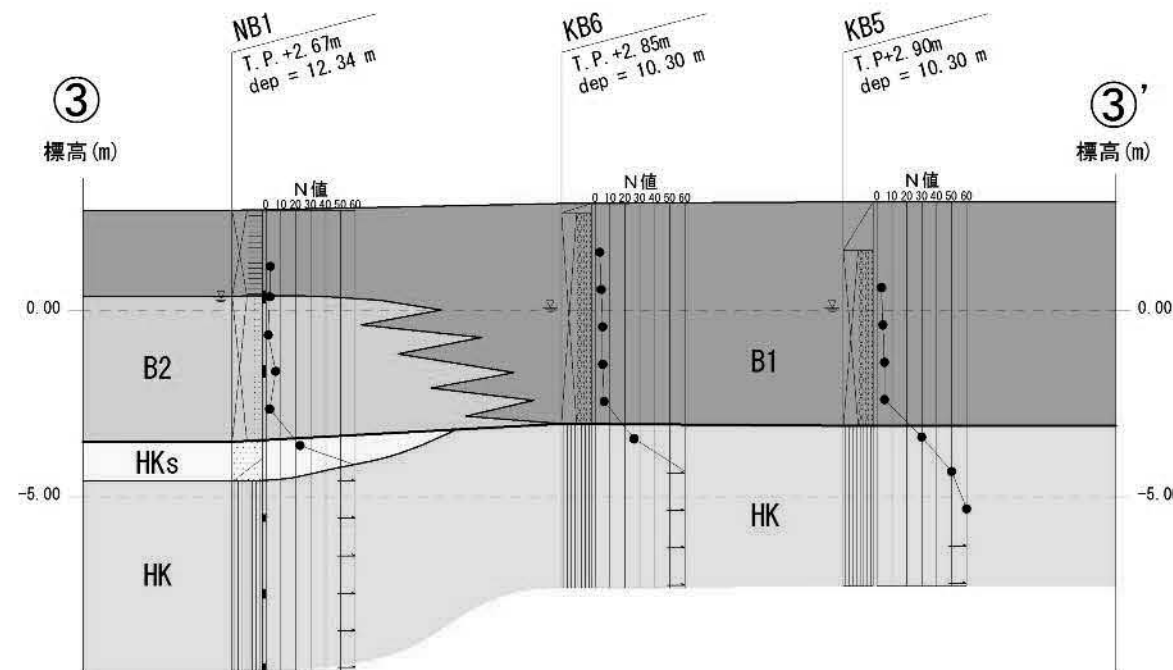


図 4.1.2 推定地層断面図 H=1:800, V=1:200

地質層序表

時 代	地 層 名	土質区分	記 号
第 四 紀	埋 土 層	粘性土層	B1
		砂質土層	B2
	沖 積 層	粘性土層	Ac
	上総層群星川層	砂質土層	HKs
		泥 岩 層	HK



※既往資料は KB1～KB6 地点は「横浜税関分館庁舎敷地土質調査工事, S38 年 5 月, ㈱鬼怒川ボーリング」
KB7～KB15 地点は「横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査, S40 年 12 月, 協和地下開発㈱」

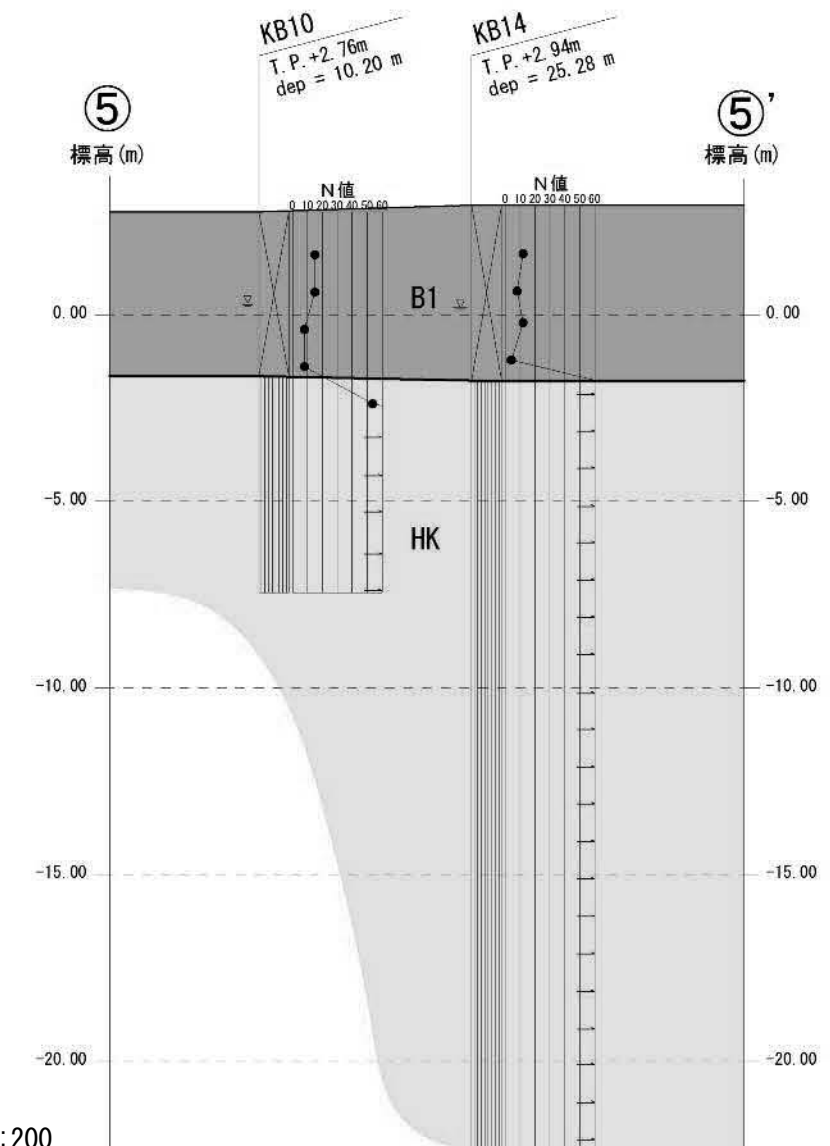


図 4.1.3 推定地層断面図 H=1:800, V=1:200

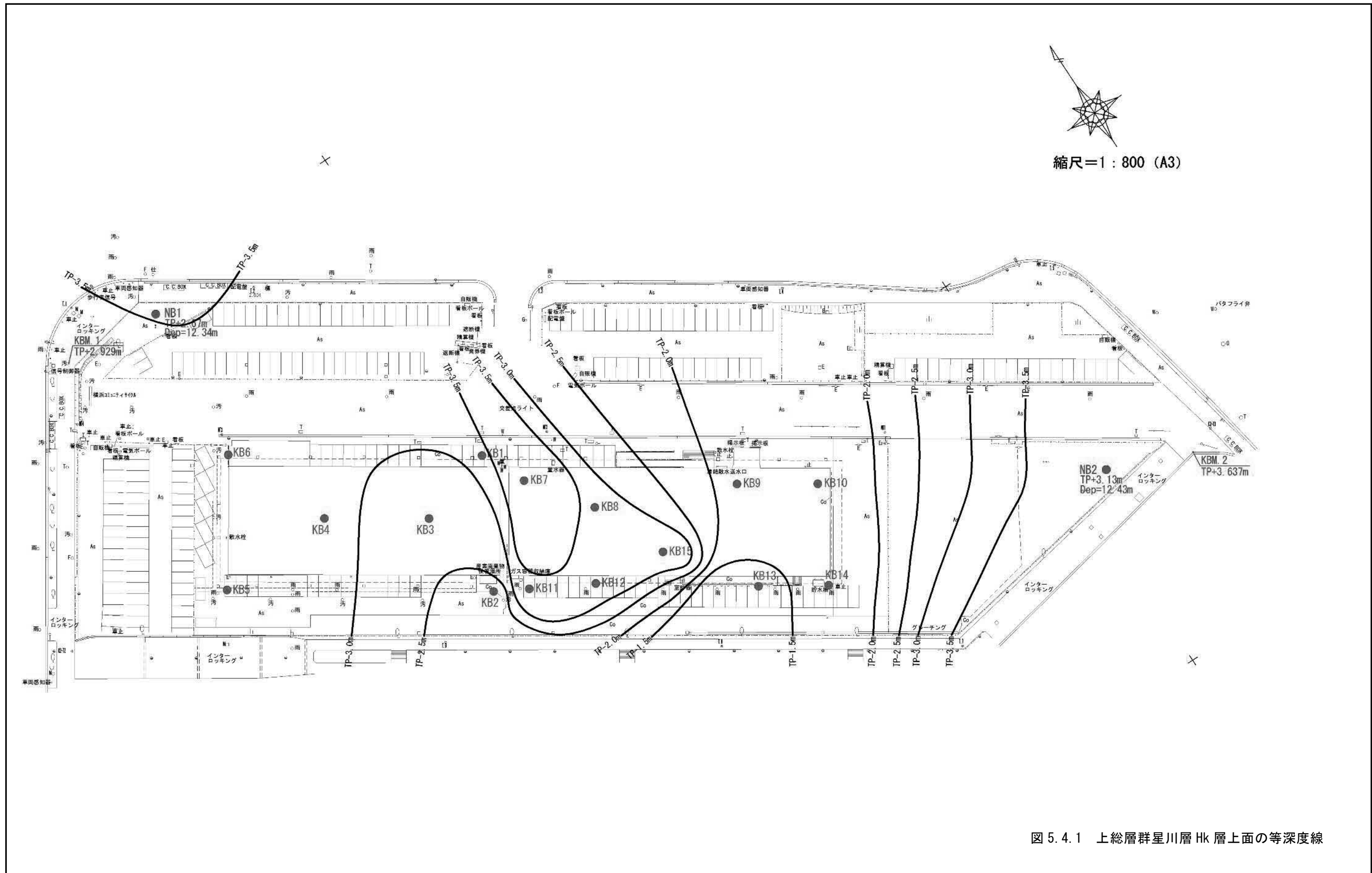


図 5.4.1 上総層群星川層 Hk 層上面の等深度線

ボーリング柱状図

調 査 名 横浜地方合同庁舎（仮称）（１６）敷地調査

[illegible]

事業・工事名

シ ト No

ボーリング名	NB1		調査位置		神奈川県横浜市中区新港1-6-2					北緯		35° 27' 09.5294"			
発注機関	国土交通省関東地方整備局横浜営繕事務所				調査期間		平成 28年 10月 3日 ~ 28年 10月 6日				東経		139° 38' 23.9632"		
調査業者名	株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング 電話 (045 761 1177)		主任技師		中原 隆		現場代理人		篠崎 晴菜 コ 鑑 定 者		吉田 充久		ボーリング責任者	小泉 義昭	
孔口標高	T.P. +2.67m	角  180° 上 90° 0° 下	方  北 0° 270° 西 180° 南 90° 東	地盤勾配  鉛直 水平 0°	使用機種	試錐機				TOHO D0-D		ハンマー落下用具		半自動落下	
総掘進長	12.34m					度	向	エンジン				YANMAR NFD9		ポンプ	

[illegible]

ボーリング柱状図

調 査 名 横浜地方合同庁舎（仮称）（16）敷地調査

[illegible]

事業・工事名

シ ト No

ボーリング名	NB2		調査位置	神奈川県横浜市中区新港1-6-2					北緯	35° 27' 04.7965"	
発注機関	国土交通省関東地方整備局横浜営繕事務所				調査期間	平成 28年 10月 7日 ~ 28年 10月 12日			東経	139° 38' 30.2358"	
調査業者名	株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング 電話 (045 761 1177)		主任技師	中原 隆		現場代理人	篠崎 晴菜 コ鑑 定 者 吉田 充久		ボーリング責任者	小泉 義昭	
孔口標高	T.P. +3.13m	角 180° 上 90° 下 0° 度	方 北 0° 270° 西 180° 東	地盤勾配 鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	TOHO DOD		ハンマー落下用具	半自動落下	
総掘進長	12.43m					エンジン	YANMAR NFD9		ポンプ	KANO V6	

標尺	標高	層厚	深度	柱状図	土質区分	色調	相對稠密度	記載事項	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験					原位置試験		試料採取		室内試験(月日)	掘進		
										深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数			打撃回数／貫入量 (cm)	N 値	深 度 (m)	試験名 および結果	深 度 (m)			試料 番号	採取 方法
											0 〜	10 〜	20 〜									
1					埋土(砂質土)	暗褐 暗灰		1. 2mまで手掘りによる試験実施。 水位は無水掘りにより確認した自然水位。 1m付近まで玉石、コンクリートガラ、レンガ片等を混入する。 玉石はφ100mm程度 少量の逸水有り。 2m試料、砂質土主体。 3m試料、暗褐色を呈する泥岩片。 4.4m以深、比較的均質なシルト質細砂で貝殻片を混入する。	10/7 3.00	1.35	1/16	1/14	2/30	2	0	NR2-1	ゴーン 指数					
2				1.65						2/13	1/17	1/13	2/30	2	0							
3				2.45						4/15	1	1	1/11	3/31	3			0				
4	1.57	4.70	4.70		砂質シルト	暗灰	軟らかい	全体に砂を多量混入する。 少量の貝殻片を混入する。 粘性弱、含水大。	10/7 3.00	4.15	1/5	1/12	1/16	3/33	3	0	4.15	2-P2	①	細粒分		
5	2.52	0.95	5.65							4.48	1/11	1	1/12	3/33	3	0	4.48					
6	3.77	1.25	6.90							5.15	1/30		1/30	1	0	6.15	2-P3	①	細粒分			
7					砂混じりシルト	暗灰	非常に軟らかい	全体に微細砂を少量混入する。 貝殻片を少量混入する。 粘性弱。	10/7 3.00	6.45	23	30	7/2	60/22	82		6.45	2-P3	①	細粒分		
8										7.37	17	34	9/2	60/22	82		8.15	2-P4	①	細粒分		
9										8.15	25	31	4/1	60/21	86		8.37					
10					泥岩	暗灰	固結した	全体に少量の砂分を混入する。 所々に粒子均一な細砂を薄層状に挟む。 8m試料、上部シルト質細砂を挟む。 10m試料、浮石を挟む。	10/7 3.00	9.15	17	28	15/4	60/24	75		10.15	2-P5	①	細粒分		
11										9.36	21	29	10/3	60/23	78		10.39					
12	9.30	5.53	12.43							10.15	14	21	25/8	60/28	64		12.15	2-P6	①	細粒分		
										12.43							12.43					

ボーリング柱状図

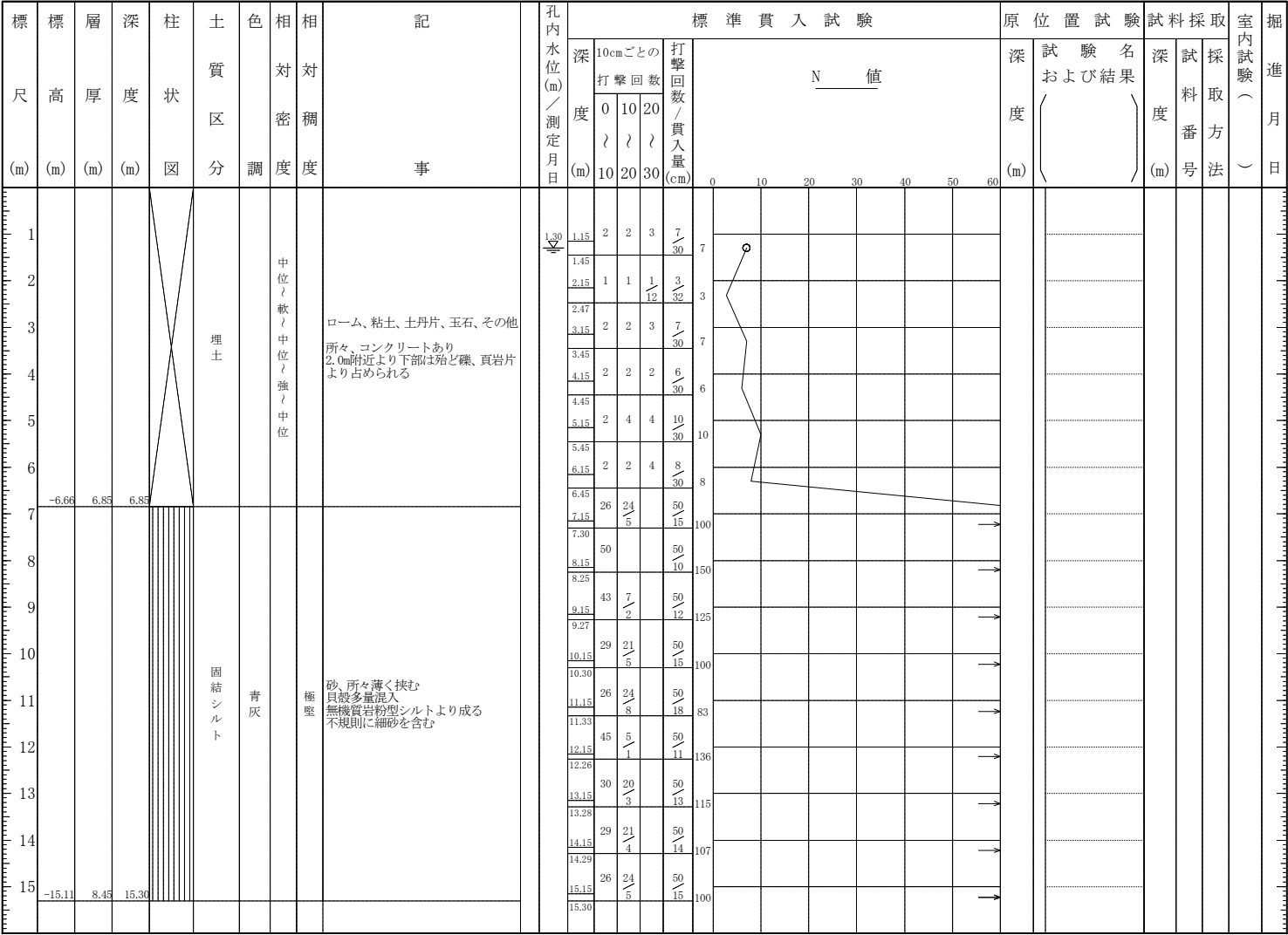
調 査 名 横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査

ボーリングNo															
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 1		調査位置	神奈川県横浜市中区新港町				北 緯						
発 注 機 関	建設省関東地方建設局営繕部				調査期間	昭和 40年 11月 30日 ~ 40年 12月 1日		東 経						
調 査 業 者 名	協和地下開発株式会社 電話		主任技師	現 場 代 理 人		コ 鑑 定 者	ボーリング責任者	山 中						
孔 口 標 高	H= +0.19m	角 度	180° 上 90° 下 0°	方 向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地 盤 勾 配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試 錐 機	B R S	ハンマー 落下用具			
総 掘 進 長	15.30m	エンジン										ポン プ		



※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

ボーリング柱状図

調 査 名 横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査

ボーリングNo															
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 2			調査位置	神奈川県横浜市中区新港町							北緯	
発注機関	建設省関東地方建設局営繕部					調査期間	昭和 40年 12月 2日 ~ 40年 12月 2日					東経	
調査業者名	協和地下開発株式会社 電話			主任技師		現場代理人		コ 鑑 定 者		ボーリング 責 任 者	山 中		
孔口標高	H=-0.07m	角	180° 上 90°	方	北 0° 270° 西 180° 東 90° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°	使用機種	試錐機 BRS		ハンマー 落下用具		
総掘進長	10.29m	度	下 0°	向		鉛直 90°	エンジン	ポンプ					

標 尺	標 高	層 厚	深 度	柱 状 図	土 質 区 分	色 調	相 対 密 度	相 対 稠 度	記 事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験					原 位 置 試 験		試料採取 深 度 (m)	試 験 名 および結果	採取 番号	室内試験 (方法)	掘 進 月 日
											深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数	打撃回数／貫入量 (cm)	N 値	深 度 (m)	試 験 名 および結果						
1					埋土		中位／軟／強		1.70mより殆ど土丹化である。	2.75	1.40	3	2	3	8/30							
2												1.70	2	2	3							7/30
3												2.45	2	2	1/12							5/32
4												3.15	2	2	2/11							5/31
5												3.47	1	2	2/11							5/31
6	-6.12	6.05	6.05	固結シルト	青 灰	極 堅	砂、所々に挟む 無機質岩粉型シルトより成る				4.15	3	3	5	11/30							
7												4.46	39	11/2	50/12							125
8												5.15	30	20/4	50/14							107
9												5.45	41	9/1	50/11							136
10	-10.36	4.24	10.29									6.15	34	16/3	50/13							115
												6.27	33	17/4	50/14							107
												7.15										
												7.29										
												8.15										
												8.26										
												9.15										
												9.28										
												10.15										
												10.29										

※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

ボーリング柱状図

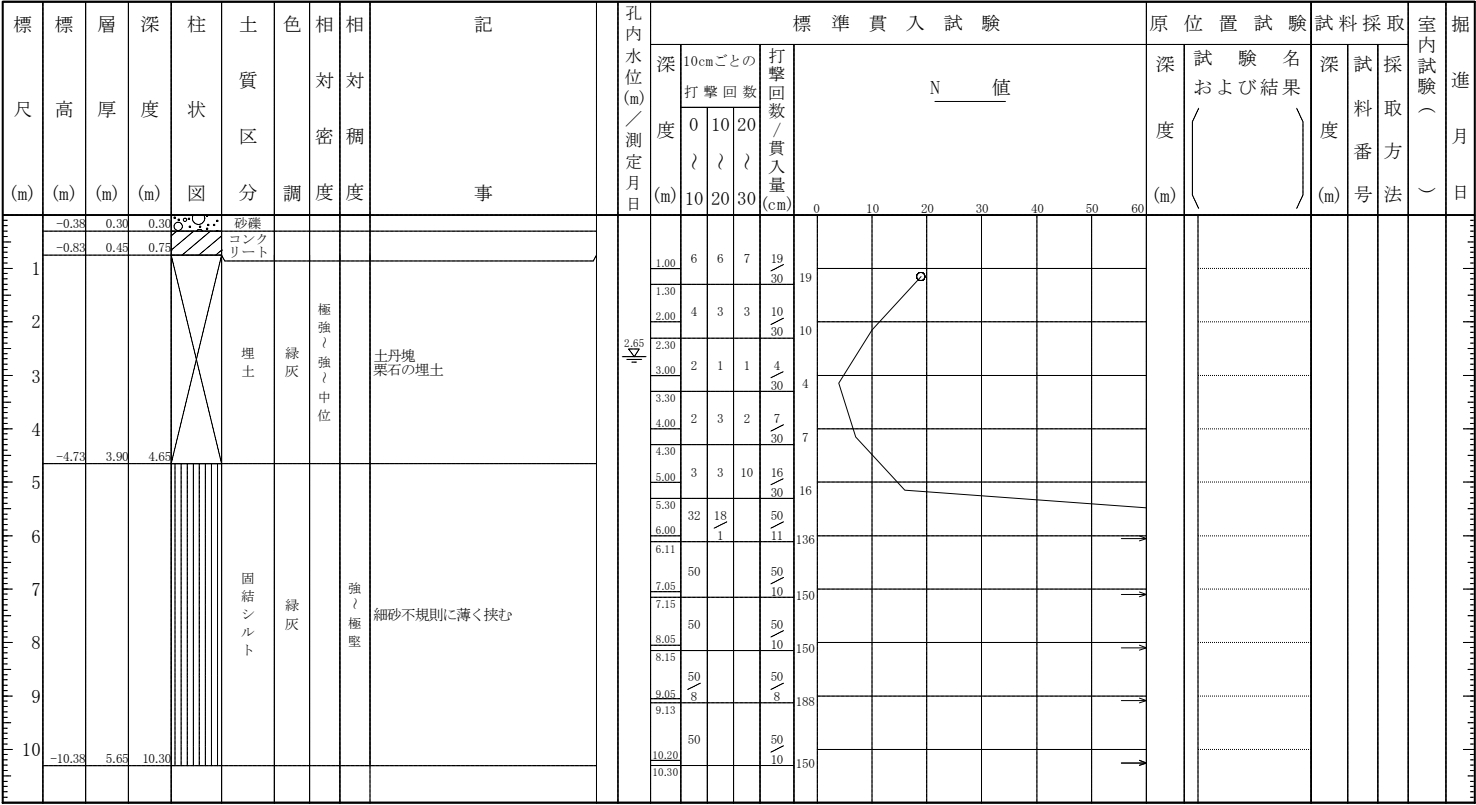
調 査 名 横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査

ボーリングNo															
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 3		調査位置	神奈川県横浜市中区新港町						北 緯	
発 注 機 関	建設省関東地方建設局営繕部				調査期間	昭和 40年 11月 29日 ~ 40年 11月 30日				東 経	
調 査 業 者 名	協和地下開発株式会社		主任技師		現 場 代 理 人		コ ン 定 者		ボーリング責任者	手塚	
孔 口 標 高	H=-0.08m	角	180° 上 90° 下 0°	方 向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地 盤 勾 配	鉛直 90° 水平0°	使用機種	試 錐 機	BRS	ハンマー 落下用具
総 掘 進 長	10.30m	度						エンジン		ポンプ	



※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

ボーリング柱状図

調 査 名 横 浜 第 一 港 湾 合 同 庁 舎 敷 地 地 盤 調 査

ボーリングNo

事業・工事名

シート No

ボーリング名	No. 4		調査位置	神奈川県横浜市中区新港町					北緯	
発注機関	建設省関東地方建設局管轄部				調査期間	昭和 40年 11月 27日 ~ 40年 11月 28日			東経	
調査業者名	協和地下開発株式会社 電話		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	H=-0.09m	角	180° 上 90° 下 0°	方 向	北 0° 270° 西 180° 90° 東	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	ハンマー 落下用具	
総掘進長	10.20m	度						エンジン	ポンプ	

[illegible]

※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

ボーリング柱状図

調 査 名 横 浜 第 一 港 湾 合 同 庁 舎 敷 地 地 盤 調 査

[illegible]

事業・工事名

シート No

ボーリング名	No. 5		調査位置		神奈川県横浜市中区新港町					北緯		
発注機関	建設省関東地方建設局営繕部				調査期間		昭和 40年 11月 28日 ~ 40年 11月 29日			東経		
調査業者名	協和地下開発株式会社 電話		主任技師		現地代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者		山中	
孔口標高	H=-0.01m	角	180° 上 90°	方	北 0° 270° 西 90° 180° 東 90° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°	使用機種	試錐機		ハンマー 落下用具	
総掘進長	10.35m	度	下 0°	向				エンジン			ポンプ	

[illegible]

※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

ボーリング柱状図

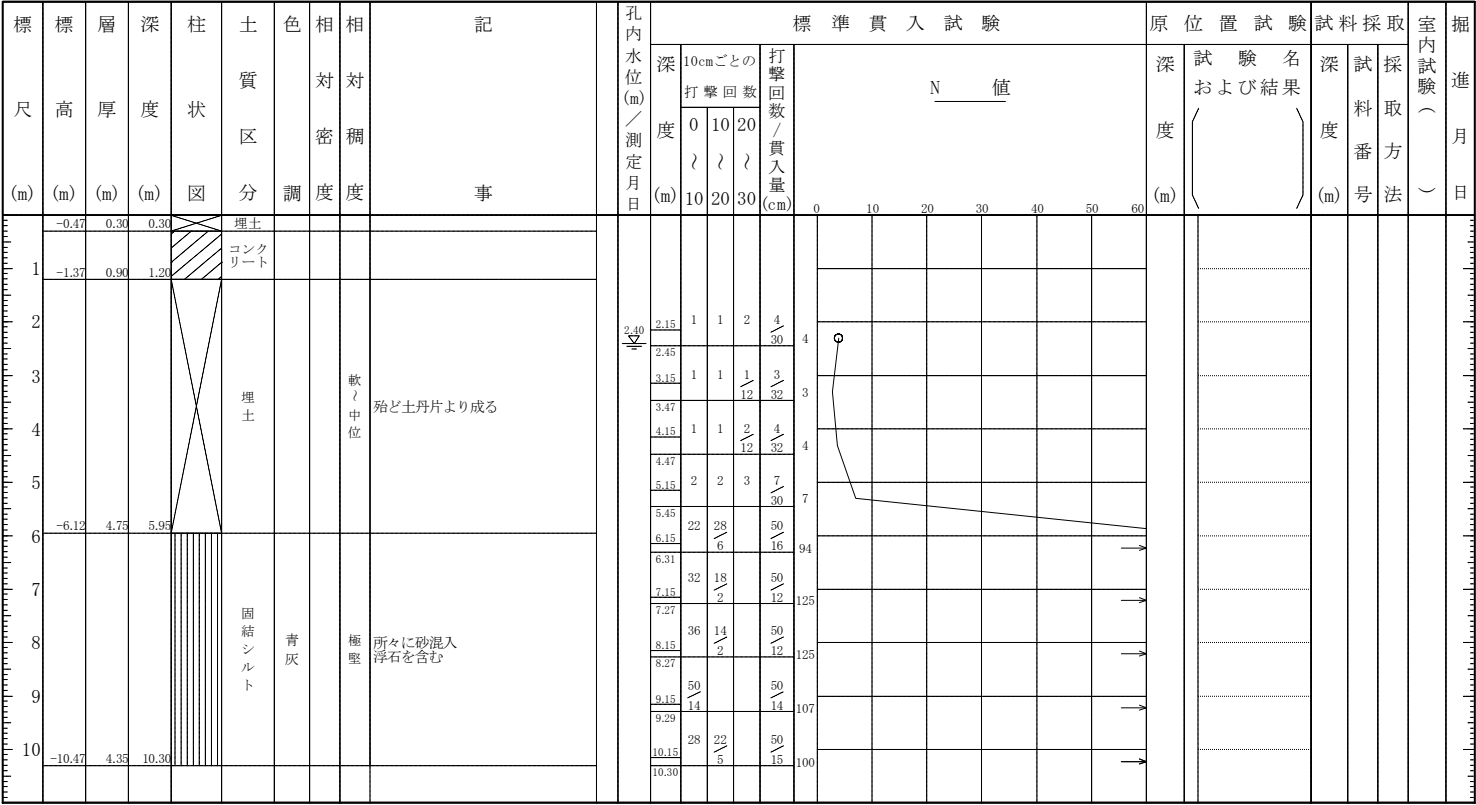
調 査 名 横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査

ボーリングNo															
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 6		調査位置	神奈川県横浜市中区新港町						北 緯	
発 注 機 関	建設省関東地方建設局営繕部				調査期間	昭和 40年 12月 4日 ~ 40年 12月 6日			東 経		
調 査 業 者 名	協和地下開発株式会社		主任技師			現 場 代 理 人	コ 鑑 定 者		ボーリング責任者	山 中	
孔 口 標 高	H=-0.17m	角	180° 上 90° 下 0°	方 向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試 錐 機	B R S	
総 掘 進 長	10.30m	度						エンジン		ハンマー落下用具	ポ ン プ



※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

ボーリング柱状図

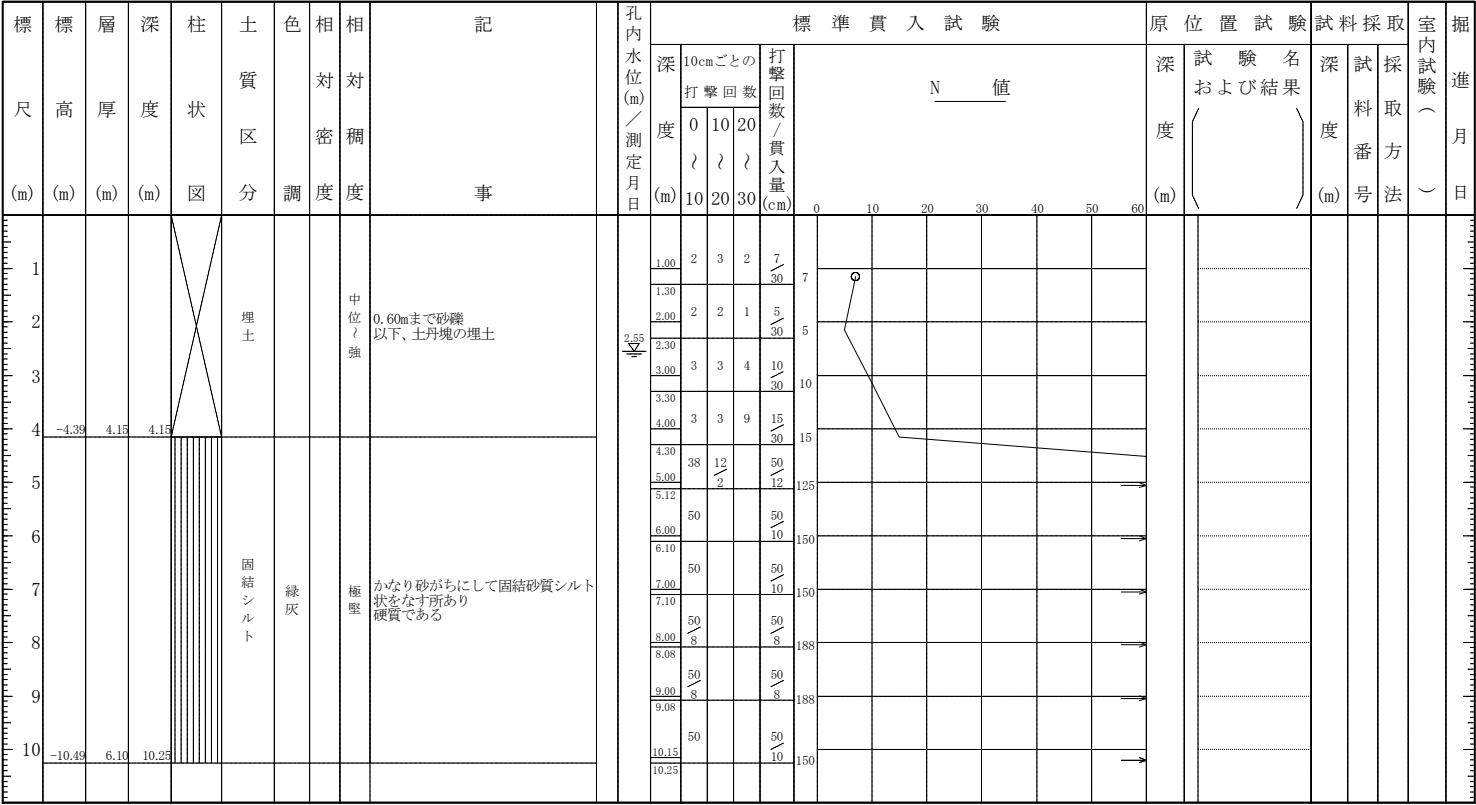
調 査 名 横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査

ボーリングNo																				
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 7		調査位置	神奈川県横浜市中区新港町					北 緯	
発 注 機 関	建設省関東地方建設局営繕部					調査期間	昭和 40年 12月 1日 ~ 40年 12月 2日		東 経	
調 査 業 者 名	協和地下開発株式会社 電話		主任技師		現 場 代 理 人	コ ン 鑑 定 者		ボーリング 責 任 者	手塚	
孔 口 標 高	H= -0.24m	角 180° 上 90° 下 0°	方 北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地 盤 勾 配 鉛直 90° 水平 0°	使用 機 種	試 錐 機 B R S		ハンマー 落下用具		
総 掘 進 長	10.25m	度			エ ン ジ ン			ポ ン プ		



※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

ボーリング柱状図

調 査 名 横浜第一港湾合同庁舎敷地地盤調査

ボーリングNo

事業・工事名

シート No

ボーリング名	No. 8		調査位置		神奈川県横浜市中区新港町					北緯		
発注機関	建設省関東地方建設局営繕部				調査期間		昭和 40年 11月 20日 ~ 40年 11月 24日			東経		
調査業者名	協和地下開発株式会社 電話		主任技師		現 場 代 理 人		コ 鑑 定 者		ボーリング 責 任 者		手塚	
孔口標高	H= -0.27m	角	180° 上 90° 下 0°	方 向	北 0° 270° 西 180° 南 90° 東	地盤 勾配	鉛直 水平 0°	使用 機種	試錐機		ハンマー 落下用具	
総掘進長	25.28m	度							BRS		ポンプ	

標尺	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相對密度	相對稠度	記 事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験				原 位 試 験		試料採取方法	室内試験(掘進月日)			
											深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数			N 値	深 度 (m)			試 験 名 および結果		
												0 〜 10	10 〜 20	20 〜 30							
	-0.52	0.28	0.23		コンクリート 割栗石						2.75	1.15	6	3	3	12					
1	-1.07	0.55	0.80									1.45	3	2	3	8					
2					埋 土				強 〜 中 位	土丹塊より成る		2.45	3	4	5	12					
3								3.00							3.30				12		
4								4.00			2	1	1	4				30			
5	-4.97	3.90	4.70					4.30			26	24	5	50				15			
6								5.00						100							
							5.15	31	19	2	50				12						
6							6.00				125										
7							6.12	50			150										
8							7.00				150										
9							7.10				150										
10							8.00	50			100										
11							8.15	50			100										
12							9.00	50			188										
13							9.08	50			188										
14							10.00	50			167										
15							10.09	50			167										
16							11.00	50			188										
17							11.08	50			188										
18							12.00	50			188										
19							12.08	50			188										
20							13.00	50			100										
21							13.15	50			100										
22							14.00	50			150										
23							14.10	50			150										
24							15.00	50			136										
25							15.11	50			188										
26							16.00	50			188										
27							16.08	50			167										
28							17.00	50			167										
29							17.09	50			150										
30							18.00	50			125										
31							18.10	50			125										
32							19.00	32	18	2	50										
33							19.12	50			125										
34							20.00	50			100										
35							20.12	50			100										
36							21.00	50			214										
37							21.15	50			188										
38							22.00	50			188										
39							22.15	50			188										
40							23.00	50			188										
41							23.07	50			188										
42							24.00	50			188										
43							24.08	50			188										
44							25.00	50			188										
45							25.08	50			188										

参考資料4－5 地盤調査（抜粋）

参考資料 4-5 地盤調査 (抜粋)

※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

ボーリング柱状図

調 査 名 横 浜 第 一 港 湾 合 同 庁 舎 敷 地 地 盤 調 査

ボーリングNo

事業・工事名

シート No

ボーリング名	No. 9		調査位置		神奈川県横浜市中区新港町					北緯		
発注機関	建設省関東地方建設局営繕部				調査期間		昭和 40年 12月 11日 ~ 40年 12月 12日			東経		
調査業者名	協和地下開発株式会社 電話		主任技師		現地代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者			
孔口標高	H=-0.06m	角	180° 上 90°	方	北 0° 270° 西 180° 東 90° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	ハンマー 落下用具		
総掘進長	10.31m	度	下 0°	向				エンジン		ポンプ		

標尺	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状 図	土質 区分	色調	相對 密度	相對 稠度	記事	孔内水位 (m)／測定月日	標準貫入試験				原位置試験		試験採取 番号	室内試験 ()	掘進 月日	
											深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数			打撃回数／貫入量 (cm)	N 値				試験名 および結果
												0 〜 10	10 〜 20	20 〜 30						
1	-0.36	0.30	0.30		コンクリート					2.50	1.15	1	1	2	4/30	4				
2					埋土				2.00mまで玉石、粘土、ローム、その他 2.00mより土丹	2.50	1.45	2	1	2	5/31	5				
3										2.50	2.15	2	1	2	5/31	5				
4										2.50	2.46	2	1	2	5/30	5				
5										2.50	3.15	2	1	2	5/30	5				
6	-6.16	5.80	6.10		埋土					2.50	3.45	3	2	3	8/32	8				
7										2.50	4.15	3	2	3	8/32	8				
8										2.50	4.47	2	2	3	7/30	7				
9										2.50	5.15	2	2	3	7/30	7				
10	-10.37	4.21	10.31		固結シルト	青灰	堅く極堅	貝殻、砂所々少量挟む		2.50	5.45	9	18	20	47/30	47				
										2.50	6.15	24	26/7	50/17	88					
										2.50	7.15	34	16/4	50/14	107					
										2.50	7.32	28	22/5	50/15	100					
										2.50	8.15	26	24/6	50/16	94					
										2.50	8.29									
										2.50	9.15									
										2.50	9.30									
										2.50	10.15									
										2.50	10.31									

※既往柱状図から読み取れるものだけ記載した

第3紀J'(国総測1)に對する等深線図
 計 高さは標高です

S = 1 : 200

